第七十八回講演集

日本に於ける學術の發達

樞密顧問官
帝國學士院長
櫻井錠二講演

財團法人
啓明會

目次

開會の辭……一
『日本に於ける學術の發達』……五
附錄　本會寄附行爲、職員名簿、出版目錄……一

財團法人 **啓明會第七十八回講演集**（昭和十二年十月三十日日本工業倶樂部に於て）

開會の辭

本會理事長　侯爵　大久保利武

一言開會の御挨拶として、先づ我が啓明會のことに付て申上げたいのであります。啓明會は大正七年に創立致しまして、丁度今年で二十周年になるのであります。その間所定の目的方針に基きまして、聊か我國の文化學術の上に貢獻致したことゝ存ずるのであります。さうして我が啓明會の事業は最も仕合なことには、我國の一流の專門大家に御關係を願ひまして、創立以來終始御盡力を煩はして居るのであります。これ等の方々は或は本會の理事とし或は評議員として、熱心に會務を審議下されし、それに補助事業擔當者諸君の調査研究の業績と相待ち、以て會の今日あるを致

し得たのであります。

今回創立二十周年を機會に、二三記念事業を計畫致しまして、來月八日の記念宴會に於て、本會がその間に於て、我國の文化學術の上に貢獻致しました業績を御披露致し、且つ過去二十年間の我國の文化學術等の發達に關する論文を、各部門に渉つて諸大家に執筆を煩はしまして、これを收錄した記念論文集を刊行することになつて居りまするが、又最初に行ふ記念事業と致しまして、櫻井博士と德富蘇峰翁に御講演を御願ひ致したところ、幸に博士の御快諾を得たのでありまして、今日の御講演は、演題の上からして博士の如き御閲歷を考へまして、極めて意義深く思はれ、本會の仕合せこれに過ぎぬのであります。

櫻井博士のことは、今更私から喋々申述べる必要もないことでありまするが、博士は明治初年に我が政府より第一回の留學生に選拔せられ、英國に長く御勉學になつたのであります。御歸朝後直ちに教授の職に就かれ、永く專門の講座を擔當なされ、爾來大學に於て專門の學術を研究教授せられたばかりでなく、我國の一般學術振興發達の上に一生を捧げて貢獻なされた多大の業績は、既に皆樣の克く御承知のことであります。殊に近年に於ける學問の進歩の著るしく、研究調査が盛んに勵奬され、實社會に卽して學問研究の發展機運の勃興せるは、全く博士の盡力に負ふところ實に大なりと申すべきと思ふのであります。今日帝室の御庇護の下に活躍せる日本學術振興會の如きは博士が主として唱導されて出來たのであります。明治初年以來今日まで、我國の學問の進運は、實に驚くべき發達であります。博士が既往を回顧なされたならば、必ずや感慨無量の思ひを爲さることゝ思ふのであります。

一言本會が今日に至りました由來を述べると共に、聊博士の學界に於ける御功績を感謝し開會の御挨拶を申上げた次第であります。

日本に於ける學術の發達

樞密顧問官
帝國學士院長　櫻井錠二君

（一）明治維新前の我學界

我國には二千數百年の歴史がありますだけに、東洋固有の文學・倫理・道德・宗教乃至美術及び美術工藝に渉る所謂人文科學に關する文化は古來驚くべき而して又西洋にも誇るべき輝かしい發達を遂げて今日に至つて居るのでありますが、これに反して自然科學に就きましては其の發生地が東洋ではなく主として西洋であり、而して又自然科學は僅に最近三百年位の間に發達したものでありまして一名近世科學と申します程であり、而もその約三百年の内二百三十年間と云ふものは、我國では寛永十五年に德川幕府の鎖國令が全國に布かれました關係上、西洋諸國との交渉が殆ど全く杜絶して了つたのでありまして、近世科學に關する文化に就きましては我國は甚

しい後れをとつて居るのであります。

尤も幕府時代に於きましても數學の關孝和先生、博物の貝原益軒・小野蘭山兩先生、醫學の前野良澤・杉田玄伯兩先生、又測地學の伊能忠敬先生の如き大家が居られまして非常な苦心努力を以て自然科學の研究に從事されたのでありますが、西洋諸國に於ける夫れと比ぶべきでないことは當然であります。從て我國に於ける近世科學及びその應用の發達……表題には『學術の發達』とありますが、これは主として近世科學及びその應用の發達と云ふ意味に御了承を願ひたいのであります……卽ち我國に於ける學術の發達は全く明治以後のことでありますから、西洋諸國に對して少くとも二百三十年の立後れをしたのであります。

(二) 近世科學發達の礎石と成つた開成所

そこで近世科學を我國に組織的に移殖し、これに依つて新しい文化を建設すると云ふことが明治政府の一大使命であつたことは申す迄もない所でありまして、この使命を達成する爲に明治政府は先づ以て德川江戸時代の末期にあり、さうして明治

維新の騷動の爲に一時閉鎖されて居りました所の三つの機關を復興利用したのであります。その三つの機關の一つは開成所、一つは醫學所、一つは昌平黌でありまして、開成所と申しますのは一ッ橋通（一ッ橋を出まして左側）にあり、醫學所と云ふのは神田和泉橋通の藤堂屋敷の跡にあり、昌平黌と申しますのは湯島の昌平坂（駿河臺の方から聖橋を渡つてその右側の橋詰）にあつたのでありまして、この三つの機關の中で一ッ橋通にありました所の開成所と云ふものが今日我國學術の發達には最も深い關係を持つて居るものでありますので、少しく歷史に遡つて御話したいと思ふのであります。

德川幕府の八代將軍吉宗公は編曆事務の關係上天文學の必要を感ぜられた所から致しまして、延享元年（西曆一七四四年）に一つの天文台を建設せられたのであります。その天文台は最初は神田にありましたが後に牛込に移り更に淺草に移つたのでありまして、その淺草にありますとき卽ち文化八年（西曆一八一一年）にその天文台の中に蕃書調所と云ふものが新に設けられたのであります、而してその蕃書調所では編曆の傍、西洋の事情を調査して、その飜譯をして居つたのであります。そ

の後、天文台の事務と蕃書調所の事務とが分れまして、天文台は淺草に殘り蕃書調所は九段の坂下（坂下の四ッ角で坂に向つて左の角）に移り而して名前も洋書調所と變つたのであります。その洋書調所が後に神田の一ッ橋通に移つて來まして名前も更に開成所と改まつたのであります而して其の開成所では洋書の調査及飜譯の外、英獨佛三外國語の教授も或る程度迄行つて居つたのであります。卽ち先刻申しました通り明治政府は先づ第一着にこの開成所を復活利用し而してこれを純然たる一つの教育機關にしたのでありまして、名前も開成校と改めたのであります。

（三）明治初期に於ける校名の頻々たる改廢

次に醫學所と昌平黌とのことに就て少しくお話致しますが、和泉橋にありました所の醫學所は幕府時代に西洋醫學、主として蘭方醫學を教授した所でありますが、開成所が開成校と改まると同時に、その醫學所は醫學校と改まつたのでありまして、依然として醫學の教育機關であつたのであります。昌平黌は幕府時代に於ける漢學及儒學に關する最高の學府でありまして、斯道の大家がこゝに教鞭を執つて居られ

たのであります。そこで明治政府はこれをも一時復活し、さうして大學と云ふ名前を與へたのでありますが、その大學なるものは勿論今日の大學の如き教育機關ではなく一種の行政機關でありまして謂はゞ今日の文部省に當る樣なものであります。さうして一ッ橋の開成校と和泉橋の醫學校とを其の所屬としたのであります。そこで湯島の昌平坂から見て一ッ橋は南に當りますから開成校の名前を改めて大學南校と呼び又和泉橋は同じく湯島の昌平坂から見て東に當りますから、醫學校の名前を改めて大學東校と呼ぶことになつたのであります。然るに明治四年に教育行政官廳として文部省が創設せられました結果、所謂大學なるものは廢止せられて大學南校及大學東校は共に文部省の所轄に歸することと成つたのであります、而して之れと同時に「大學」の二字は削られて「大學南校」は單に「南校」となり「大學東校」は單に「東校」となつたのであります。

ところが、明治五年に一つの新しい學制が布かれたのでありまして、確か森有禮さんが外國から歸られて政府に建議された所の案であると云ふ風に承知致して居りますが、その案は全國を幾つかの大學區に分けて各區に一つの大學を置き、而して

各大學區に幾つかの中學校を置き又その下に幾つかの小學校を置くこととして、中學校を卒業した者は直に大學に進んで行く仕組であつたのであります。さう云ふ意味の新しい學制が布かれたのでありまして、その結果一ッ橋通にありました所の南校は更に名前が變りまして、今度は「第一大學區第一番中學」と云ふ恐しい長い名前に變り、而も教育の制度が組織的と成つた譯でありましたが、此の制度は一ヶ年の後に廢止されるに至つたのであります。

(四) 當時の學生及學科課程

今右制度の廢止の理由を述る前に、開成校時代乃至第一大學區第一番中學時代即ち明治二・三年より同五年に至る頃の學生や學科課程のことに就て少しくお話して見たいと思ふのであります。

當時の學生の約七割位は貢進生と云ふもので、其の貢進生なるものは政府が全國各藩に命じてその藩中の秀才で十六歳以上の者を選拔せしめ而も五十萬石以上の大藩からは各三人、五十萬石未滿二十萬石以上の中藩からは各二人、二十萬石未滿の小藩からは各一人、斯う云ふ割合で、全國から募集した所の十六歳以上の秀才であつたのでありますが、他の約三割は試驗に依て入學を許可された者でありまして、私も其の一人であつたのであります。私の東京に出ましたのは明治四年即ち十四歳のときでありましたので、先づ第一に年齡に於て又其の他の點に於て貢進生たるべき資格がなかつたのでありますから、試驗を受けましたところ幸にも之に合格して入學を許可せられ、全國各藩から選出せられた秀才而も年齡に於て少なくとも二つか三つ、中には五つ六つも歳上の者がありまして、是等の優秀なる學生と競爭して勉强するの機會を得ましたことは私の爲には眞に幸であつたのであります。

其の當時の一般學生の氣概は、時勢が時勢でありました丈に、非常に緊張したもので、勤勉努力の精神に富み而も將來必らず國家の爲に盡す所あるべしとの固い決心を以て勉學に從事したものでありますから、學業の進歩も著しいものがあり、今日の樣な甚しく弛緩した氣風とは全く其の趣を異にする所があつた樣に思ひます。

次に其の當時の學科課程に就て一言致しますならば、學科としては國文・國史・漢文の如きは勿論あつたのでありますが、最初の中は何と言つても外國語（英又は佛又

は獨）が主なるものでありまして、尙追々と修身・地理・算術・代數・幾何・博物・生理・化學・物理等が加はり、而も國文・國史・漢文を除く外は、受持教師は全部外國人、講義は全部外國語、教科書は全部外國書、而して講義は全部外國語で筆記すると云ふ風でありましたので、外國語の進歩は特に著しいものがあつた樣であります。課程の點は今日の制度に依るものと正確に比較することは勿論出來ませんが、外國語を除く外は、明治五年頃のことを申せば先づ今日の中學一・二年位の程度であつたかの樣に記憶致します。尙一言附加へますが、學生は其の選擇する所の外國語に依て英・佛・獨の三部に分配せられて居りましたが、學生の大多數が英の部に屬して居たことは勿論であります。

（五）專門教育と海外留學生

前に述べました通り、明治五年に新に布れた所の教育制度は一ヶ年の後に廢止さるるに至つたのであります、而して其の理由は同制度に依て中學卒業者は直に大學に進入すべき順序と成つて居たのでありまして其の時期は一年後に迫つて來たに拘らず大學創設の準備が間に合はなかつたが爲であります。そこで、止むを得ず同制度を廢止し、同時に間に合せの方便として一の專門學校を設置し、そうして中學卒業生を之に收容することと成つたのであります。尙大學の校舍として經營せられた新築が明治六年に完成致したので、中學卒業生は之に移り同年九月より彌々專門教育を受けることと成つたのであります。

其の校舍は歷史的開成所―開成校―大學南校―南校―第一大學區第一番中學のあつた所の向側、卽ち現に學士會館のある所に新築せられたのでありまして、校名は舊開成所の「開成」を採つて開成學校と呼んだのであります。（翌七年には之に「東京」の二字を冠して東京開成學校と改名）而して學生は大部分校舍內に寄宿して制服・制帽でなければ外出することが出來なかつたのであります。

そこで、專門學科としては法學・工學・化學の三學科が設けられて、英の部卒業生は其の一を選擇することになり、尙別に佛の部卒業生の爲に諸藝學科と云ふものが設けられ又獨の部卒業生の爲に鑛山學科が設けられたが、此の二學科は後に廢止となりました。又開成學校―東京開成學校の修業年限は豫科一年本科三年の四ヶ年で、

本科では科目は全く專門的となつたのでありまして、今一例として化學科の科目を擧げて見ますならば講義としては無機化學・有機化學・製造化學・冶金學の外に化學史があり又實習としては一般化學實驗の外に定性分析・定量分析及試金があり尙卒業の必須條件として一定の問題につき獨創的研究を行つて之に關する論文を提出することに成つて居たのであります。

話は少しく横道に這入るやうでありますが、明治八年と九年とに渉つて東京開成學校在學の學生中から數名の者が選拔せられて海外留學を命ぜられたのでありまして、今其の事情に就て簡單にお話して見たいと思ふのであります。

明治二・三年の頃官費を以て海外に留學した者が相當多數に上つたのでありますが、必ずしも適當な者を選拔して派遣した譯ではなく、多くは情實により又は傳手を求めて出掛けたのであります。そこで、明治四年に文部が設立せられて官費留學生の監督に當ることとなりましたが爲に、翌年九鬼隆一氏が文部書記官として海外に派遣せられて留學生の成績を視察調査することになつたのであります。その結果、中には相當成績の良いものもあるけれども、大多數は學業も一向進歩しない又品行も

思はしくないと云ふので、官費留學生は全部喚び返されたのであります。けれども明治政府は泰西文化殊に近世科學を組織的に移殖し、さうして我邦に新文化を建設すると云ふその使命を達成する爲には、どうしても海外に適當の者を留學させることの必要を十分承知して居たのであります。そこで、明治八年に至りまして政府は太政官の布告を以て而して一定の條件を附して全國に留學志望者を募集したのであります。之れは素より情弊を防ぎ而して公平なる方法に依て適當なる候補者を得る爲であつたのでありますが、謹も應じて來る者がなかつた、そこで文部省に於きましては當時東京開成學校在學中の學生に就て人物や品行や學業の銓衡を行つた上で留學を命ずることに議が決まりまして、明治八年に一組又九年に一組都合二組の留學生が出たのであります。

明治八年組は法學科では鳩山和夫・小村壽太郎・齋藤修一郎・菊池武夫の四人、化學科では松井直吉・長谷川芳之助・南部球吾の三人、又工學科では平井晴二郎・原口要の二人であつて、合せて九人の留學生は孰れも亞米利加に行つたのであります。尙其の外に諸藝學科の古市公威は佛蘭西に又鑛山學科の安藤清人は獨逸に行つたのでありま

して、都合十一人の留學生が明治八年に出たのであります。

明治九年にも亦太政官布告を以て留學希望者を募集したのでありますが、矢張一人も應募者がなかつたので、再び前と同樣に東京開成學校在學の學生中から選拔して留學生を出したのでありますが、その時に選拔されたのは法學科では穗積陳重・向坂兌・岡村輝彥の三人、化學科では杉浦重剛君と私との二人でありましたが、杉浦君が化學專門家で在られたことは一寸人の不思議に思ふ所であるかも知れませんが確に立派な化學者で、留學中發表せられたる化學關係の研究論文が一・二ある筈であります。それから工學科では關谷清景・增田禮作・谷口直貞の三人で、以上八人は全部英國に留學したのであります。その外に諸藝學科沖野忠雄・山口半六の二人は佛蘭西に行つたのでありまして合計十人、而してこの年には獨逸行は一人もなかつたのであります。卽ち前後二組で二十一人の文部省留學生が東京大學創立前の明治八・九兩年に渉つて出たのでありまして、是等の留學生は勿論學士ではないのであります、而して其の留學期は何れも五ヶ年であつたのであります。

東京大學創立以來、卒業者の中から選拔せられて海外留學を命ぜられた者は今日多數に上つて居りませうが、概して卒業後數年を經た上で海外に出掛る樣であります又其の留學期は何れも三年以下と成つて居る樣であります。

（六）東京大學の創立及發達と高等專門教育機關の增設

東京大學創設の準備が完成しましたので明治十年に彌々其の實現を見るに至つたのであります、卽ち東京開成學校を昇格して東京大學法理文三學部と成し又和泉橋の醫學校を昇格して東京大學醫學部と成したのでありまして、茲に法・理・文・醫の四學部を以て構成せる一の綜合大學が初めて、我國に出來たのであります。而して加藤弘之先生が最初の總理に任命せられて全體を統轄せらるることと成つた譯でありますが、醫學部は其の所在を異にし又歷史を異にせるに鑑みて一時別に副總理を置いて其の長とすることと成り而して池田兼齋先生が副總理であつた樣に記憶して居ります。

話は少しく後戻りをしますが、明治四・五年の頃虎の門卽ち現に文部省の建つて居る所に工學校と云ふものがありまして工部省の管轄に屬し而して專門技術者の養成

の機關でありまして建築・土木・鐵道・電氣・應用化學と云ふやうな、技術者となるに必要なる學科が設けられてあつたのであります。その工學校が明治十年に、東京大學が出來ると同時に、昇格して工部大學校となつたのであります、而して東京大學と相竝んで、我國に於ける學術の發達に多大の貢獻を爲したものであります。

然るに明治十九年に工部省が廢された結果工部大學校は文部省の管轄に移りましたので之を東京大學に合併し、同時に東京大學の名稱を廢して之れを帝國大學と呼ぶことになり、又從來の學部の名稱は之を廢して法學部は法科大學、文學部は文科大學、理學部は理科大學、醫學部は醫科大學と呼ぶことになつたのでありまして、舊工部大學校は合併の結果帝國大學工科大學と成り而して從來東京大學理學部中にあつた工科關係の學科は之に移されたのであります。

それから更に四年後の明治二十三年になりまして、駒場農學校と東京山林學校とが共に農商務省の管轄から文部省に移管されて帝國大學農科大學と成つたのでありまして、明治十年に創設された東京大學は僅々十三年間に非常な發達を遂げたものであります。

又越えて明治三十年に、京都に一つの帝國大學が新に設立せられましたので從來の帝國大學は之を東京帝國大學と呼び、新設の方は京都帝國大學と呼ぶことになつたのであります。其の後更に東北・九州・北海道・大阪・京城及臺北の各帝國大學が增設せられ又他方種々の私立大學や單科大學や其の他の高等專門教育機關が續々として增設せられたのでありまして、何れも直接間接我國に於ける學術の發達に多大の貢獻をして居る譯でありますが、其の歷史の古い點から考へても又卒業者の數の多い點から見ても東京帝國大學が最も大なる貢獻を爲して居ることは言ふ迄もない所であります。

（七）模倣と獨創

そこで、今東京帝國大學を初めとして他の高等專門教育機關が我國の學術發達に大なる貢獻を爲したと云ふことは如何なる意味の貢獻であるかを少しく吟味して見るときは、遺憾ながら其の貢獻が殆ど全部歐米諸國に於ける發見・發明の移殖・模倣に係る貢獻に過ぎないことを自覺せざるを得ないので　ります、而して單に此の移殖

模倣が目的であつたとするならば、何の爲に八つの帝國大學其の他多數の高等專門教育機關の必要があるかを疑はしむるに至るものがあります。

のみならず、大學は單なる教育機關ではない。學術の蘊奥を攻究することが其の目的の一として大學令第一條に規定されてある、又大學には研究科を置くとか大學院を設けるとか云ふことも規定されてあるが、何れも單なる空文であつて、肝心の研究費は少しも豫算に計上されて居ない、而して斯樣な實狀であつては我邦の將來は眞に憂慮に堪へないものがあるのであります。

申す迄もなく、優勝劣敗は天地間の通則でありまして、獨り猛獸のみではなく人間も亦食ふか食はれるかの運命を持つて居ることは歴史に徵して明なる所でありますが、世界の競爭は年々歳々劇烈を加ふに至り而して此の劇烈なる競爭場裡に於て優位を占むべき唯一の武器は獨創的學術研究であることを忘れてはならぬのであります。

我國では獨創的研究の種子は遠く明治の初期に於て既に蒔かれて居たのでありますが、模倣萬能の時勢に抑壓せられて明治時代には其の種子は殆ど發芽するに至らずして止んだのであります。少しく餘談に渉りますが、我國に於ける學術の發達には重大なる關係がありますから、如何にして明治の初期に、我國に獨創的研究の種子が蒔かれたと云ふことをお話して見たいと思ふのであります。

（八）ウ博士と我學界

文久三年に伊藤俊輔（後の公爵伊藤博文）・井上聞多（後の侯爵井上馨）・山尾庸三（後の子爵山尾庸三）・野村彌吉（後の子爵井上勝）及遠藤謹介の五人の長州藩士が泰西文化の考察研究の目的を以て横濱のジャーディン・マテソン商會所有の船に乘込み、幕府の禁を犯して英國に渡航せられたことは世間に相當よく知られて居る樣に考へますが、さて夫れから後のことに就きましては之を知るもの極めて少なく、而も右五氏の渡英が我國に於ける學術の發達に重大なる關係を有して居ることに就ては全く世間に知られて居ない樣に考へますから此の機會に於て少しく詳しくお話して見たいと思ふのであります。

五氏が英國に到着せらるゝと、直にジャーディン・マテソン商會倫敦代理店の手を

經て一人の中老紳士に紹介せられ而して其の紳士が五氏を一身に引受けて萬端の世話を爲し、之れが爲に五氏は勉學上視察上多大の便宜と利益とを得られたのでありますが、其の紳士は倫敦大學の教授で世界に其の名を轟かした化學の大家ウイリアムソン博士であつたのであります、而して其の後明治九年より十四年迄五ヶ年間の英國留學中倫敦大學に於て私の師事したのも矢張其のウイリアムソン先生であつたのであります。

斯くしてウ博士指導の下に泰西文化の考察研究を進むるに從ひ五氏は益々其の偉大なることに驚くと共に愈々攘夷論の非なることを痛感して大に決心する所があつたらしく考へられるのでありますが、翌年卽ち元治元年に至り所謂馬關事件なるものが突發し而して異鄕に於て此の悲報に接した五氏の驚愕は實に一方ならざるものがありまして、伊藤・井上兩氏は直に歸朝して長州藩士の鎭撫に當ることゝし、又他の三氏は英國に留つて夫々研究を繼續することとなつたのであります。

馬關事件が鎭靜して間もなく明治維新の偉業が遂行せられたことは人の知る通りであります、而して明治政府の一大使命が近世科學と其の應用とを我國土に移殖し之に依つて新文化を建設するにあつたことは前にも申しました通でありまして、維新後直に幕府時代の開成所を復興して純然たる教育機關となし而して全國より貢進生を募集して之に入學せしめるなど、時を移さず右使命達成の第一歩を踏み出した譯であつたのであります。

そこで、最初の中は外國語を主として而して近世科學は單に其の初歩に過ぎない程度でありましたから、當時の教師は全部在住宣教師などの中から選拔して之を任用したものでありますが、生徒の學力が進み而して彌々專門教育を施すべき時期の切迫するに從つて適當な專門學者を教師として招聘するの必要を生じましたので、政府當局は英國より之を招聘することゝしたのでありますが、當時の英國には我公使館も領事館もなかつたのでありますから、横濱のジヤーディン・マテソン商會に依賴したのであります。そこで、同商會は其の倫敦代理店に之を傳達し、代理店では前の關係を辿つてウイリアムソン博士に適任者の推薦を依賴したのでありまして、同博士が直接間接是等專門教師の推薦に關與せられたことは我國學界の爲には非常なる仕合せであつたのであります。と申します譯は、斯くして我國に渡來された教師

は何れも新進有爲の學者揃ひでありまして、或は東京開成學校―東京大學に於て、或は工學校―工部大學校に於て、非常なる熱心を以て近世科學及其の應用の指導に從事し、殊に獨創的研究の精神を鼓吹して實際に自ら其の例を示し又學生を研究助手に使つて實地の訓練を施す等、我國學術發達の初期、卽ち最も大切なる時期に於ける是等外國教師の功績は眞に大なるものがあつたのであります。而も是等外國教師の內、エヤトン・ダイヴァス・ユーイング・ミルン・ペリー諸氏の如きは何れも後年に至り倫敦ローヤル・ソサイティの會員に推選せられ世界的知名の學者と成られたことは人の知る通であります。又ダイヴァス氏が明治十九年工部大學校が東京大學に合併後も尙本鄕なる帝國大學に移つて新進化學者の研究指導に當られ、前後三十數年の長きに涉つて我學界に貢獻せられた其の功績の特に大なるものがあつたことも亦人の知る所であります。

(九) 世界大戰と我學界

斯樣にして明治六・七年の頃より獨創的研究の種子は旣に我國土に蒔かれて居たのでありまして、我學界の研究熱は年と共に加はり而も獨創的研究の必要は折に觸れ機に臨んで幾度か叫ばれた所でありますが、一度結ばれた模倣萬能の夢は容易に覺めずして、政府も亦一般國民も此の叫びに耳を傾くることなくして止んだのであります。

然るに、大正三年に世界大戰が勃發し而して其の結果、醫藥・染料其の他の日用必需物資の輸入が杜絕したので、我事業界は甚しき混亂に陷り、而して政府に於ても種々施設する所があつたのであります。其の一は農商務省に於ける「化學工業調査委員會」の設置でありますが、私も其の委員に任命されましたので、此の機逸すべからずと考へ、豫てより同學の有志と共に計畫中の化學研究所設立案を提出し而して當時の如き事態を永遠に救濟し尙進んで、我國產業の發達を期し以て世界の經濟的競爭に優位を占むべき唯一の方策は學術研究の促進を措いて他に之を求むべからず殊に化學研究所の設立は一刻も猶豫すべきに非ずとの意見を强張したのであります。幸にして此の意見が容れられ而も化學と物理學との密接關係に鑑み此の二科を合せて理化學研究所を設立することゝなり、而して之に要する資金は民間有志の寄

附金と政府補助金とを以て之に充ることとし、而して資金の調達は故澁澤子爵主として之に當り又事業の計畫は不肖主として之に當ることとなりまして、種々の困難はありましたが、結極之を押切つて大正六年に純然たる研究機關として財團法人理化學研究所の設立を見るに至つたのであります。

爾來同研究所が學術上・産業上如何に大なる貢獻を爲しつゝあるかは私より申上る迄もない所でありますが、一つ申上たいのは理化學研究所の設立に依り、有爲有能なる幾多の新進學者が初めて一意專心獨創的研究に沒頭することが出來る樣になつたことでありまして、同所の設立は我國に於ける學術の發達に重大なる意義を有するものと考へられるのであります。

設立の時期には多少前後の相違はありますが、理化學研究所に次で東京帝大の地震研究所・航空研究所、東北帝大の金屬材料研究所、京都帝大の化學研究所、遞信省の電氣試驗所、陸軍の科學研究所、海軍の技術研究所等立派な研究機關が多數に增設され、之れに依て我國の學術が愈々發達するに至りましたことは申す迄もない所であります、而して是等研究機關の增設が何れも直接間接世界大戰の與へたる教訓の結果であることは是亦申す迄もない所であります。

研究機關の增設は素より必要であり結構でありますが、帝大關係の研究所は折角政府の施設に係るものでありながら何れも研究費の貧弱なるに苦しみ、又是等研究機關に關係なき一般學界は尙更研究費の不足に苦しみ拔いで居りましたところ、茲に一つの福音が我學界に齎されたのであります。それは何であつたかと申しますに啓明會の如き、齋藤報恩會の如き、原田積善會の如き、服部報公會の如き、三井報恩會の如き學術研究の奬勵促進を目的とする有力なる財團が次から次と設立せられたことでありまして、我學界の爲眞に慶賀の至に存ずる次第であります。殊に赤星鐵馬氏が他に率先して早くも大正七年卽ち理化學研究所設立の翌年に金壹百萬圓を提供され而して之を基本として、財團法人啓明會が創立されたことに對し私は常に滿腔の敬意を表する者でありまして本日此の機會に於て同氏に對し一言御挨拶を申上ることは私の光榮とする所であります。

尙我國に於ける學術研究奬勵促進機關として最も有力なるものは日本學術振興會であらうと考へますので、同會のことに就て少しくお話致したいと思つて居りまし

たが、豫定の時間も超過致し又私も少しく疲勞を覺えますので、今日は之で御免を願ふことに致します。

附錄

本會設立月日

大正七年八月八日

本會寄附行爲

第一章　總則

第一條　男爵牧野伸顯平山成信ハ赤星鐵馬ノ寄附ニ係ル金壹百萬圓ヲ以テ財團法人ヲ設立ス

第二條　本財團法人ハ啓明會ト稱ス

第三條　本會ハ公益ニ資スル爲メ左ノ事業ヲ行フヲ以テ目的トス

一　特殊ノ研究、調査、著作ヲ助成シ又發明發見ヲ奬勵スルコト

一　必要ニ依リ本會自カラ專門家ニ依囑シテ前項ノ事業ヲ爲スコト